

山岳クラブ／ゲーテントーク(ドイツ語 こんにちは)

# 月報 やまふみ



児野山から見た御嶽山

No.207 平成 25 年 5 月 12 日発行 山踏み

会 長 / MT

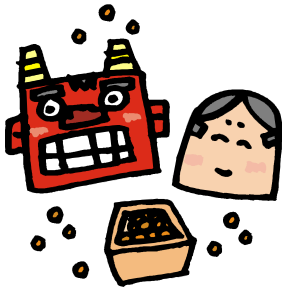
事務局長 / TK

ホームページ / <http://guten-nagano.com/>

編 集 / ST KK UR

印 刷 / 中央プリント(株)

## 目次



山行報告	1~9
山行計画	10~11
おしらせ	11
来月担当者&編集後記	11~12

## 3月20日(土) 八ヶ岳・中山尾根 (個人山行)

L:KM 他 会員外1名

2年前、まさに震災翌日に計画しそのままになっていた中山尾根に、日帰りでトライしてきた。総行動時間は13時間に及んだが、それだけの価値がある1本であったので報告したい。

ほとんど徹夜状態で、美濃戸口の八ヶ岳山荘を午前 03:45 に出発。ヘッドランプの灯りを頼りに凍結した林道をとぼとぼ歩き、美濃戸山荘に 04:50 着。午前 06:10、空が白んできたので、靴紐調整をしながらヘッドランプを消灯。雪解けが進んですっかり春の様相。



中山尾根

写真が、今回登る「中山尾根」(2級IV-)。下部岩壁と上部岩壁に別れる。07:15 に行者小屋。ハーネスを装着し、07:40 出発。中山峠を右折し、樹林帯へ。08:25 に下部岩壁基部へ。前にも後ろにもクライマーはいない、貸し切りだ。下部岩壁手前の尾根でダブルロープをアンザイレンし、09:10 に登攀開始。

1P目はK。正面のペツルが打ってある場所から取り付く。本来は点線のように



1 P目

に、右下に一旦下ってルンゼを詰めるらしく、そっちの方がカンタンらしい。終了点はペツル2本のアンカーが2ヶ所もあり、人気が領ける。

2P目は S。スラビーなフェース。終了点がよくわからず、稜線上のテラスで木で支点を構築。そのままワタシがトップにはいり、50m 一杯登ってそのままコンテ(同時登攀)に入る。雪解けが進み、ミックスパートも少なくない。

鬼のように重たい 50m ロープ2本を引きずりながら、上部岩壁基部に 11:00 着。この辺りから、西壁に吹き付ける風が強さを増してきた。

上部1P目はS。ペツルが2本打ってある場所の右にある、顕著な凹角を登る。「支点は多い」という記録を読んでいたが、かなりの高さまでノーピン。

上部テラスは正面凹角か左フェース。Sは左側に打ってあるペツルから稜線に上がる。ホールドも豊富で、ここがIV+とは思えない。2P目はK。尾根伝いに登ると程なくしてペツル2本の終了点。この先の様子がわからなかったのも、ここでピッチを切る。

3P目はS。ロープが半分出たところで、ペツル2本の終了点へ。4P目は K。少し登ると、右側に壁が立ち上がるが、どこを探してもピンがない！？風はいよいよ強さを増し、アヤシイ黒い雲が近づいていたため「ええいっ！」と突っ込む。わずか4、5mほどの壁とは言え、リップ手前は薄くかぶり、ノーピンはかなりびびった。後で調べたら、ここは左から巻けるらしい。

上部は体が持っていかれそうなほどの烈風で、匍匐前進。終了点が岩陰で風がしのげたのは助かった。最後のトラバースはS。落ちるようなルートではないが、下は崖がぱっくり口を開けているのでびびる。奥にリダイレクション用のボルト有り、Sは使ってくれなかったけれど。12:55 に八ヶ岳の主稜線に到着、登攀終了。



気温はそれほど低くはないが、体が持っていられるほどの突風が吹き荒れていたのも、荷物を早々にまとめて 13:05 に下降開始。雲行きがどんどん怪しくなってくる。時折襲ってくる突風に耐えるため、耐風姿勢をとることもしばし。眠気と疲れで漫然と歩きがちであったが、滑落したら終わる斜面はさすがに緊張が走る。



13:30、地蔵分岐。横岳を振り返る。融けては凍りをくり返し、がちがちに締まった地蔵尾根。風も強く、気が抜けない下降が続く。樹林帯まで下ると風も和らぎ、暖かさを感じた。14:40 に行者小屋を通過。16:00 に美濃戸山荘を通過、やまのこ村で大休止。荷を背負ったままベンチで休んでいると、よっぽど辛そうな顔をしていたのか、諏訪ナンバーのやさしいお兄様が車に乗せてくださった！4輪チェーンは、さすが強い！帰りにスタックしている車あり。この時期は、日陰はまだ凍結している。そして、16:35 に美濃戸口へ帰着。荷を解いたと同時に雨が降ってきた。

ギア:ダブルロープ、ヌンチャク 8 本程度、シュリングは多めが良い。要所には支点あり。シングルアックスで問題なし。週末はガイドツアーも多く、渋滞することもあるため、早めに取り付きたい。下部岩壁2P目終了点までは撤退可能だが、以降は突破する必要があるため、天候や時間、体力などここで判断するとよいか。

難易度:赤岳主稜よりも長く、クライミング要素も強くて充実する。下部岩壁の正面ルートは、テラスに上がるまでが難しい。

K記

## 3月23日(土) 北ア・乗鞍・位ヶ原スキー (例会山行)

L: T井 K林、K池

9:15 ゲレンデトップ～11:30位ヶ原 12:00～13:30 休暇村駐車場

日曜日に行く予定だったのに天気予報を見て急遽土曜日に変更したため、人数が減って3人で行くことになった。乗鞍高原に来るのは久しぶりだ。何年前かに初めて山スキーデビューした時を思い出した。その時は強風でリフトが止まっていてゲレンデを歩いて登った。シールを付けるのも初めてでシール歩行の練習をゲレンデでやったことを思い出した。

今回はリフト3本を乗り継いで順調にゲレンデトップへ到着。すでにたくさんの方がバックカントリーの準備をしていた。相変わらず大人気の山だ。登りはじめてすぐに核心の急坂に出る。俺は右の樹林帯から巻いたので楽だったけど直登した二人は斜面が凍っていたのでカニ歩きで苦戦していた。その後はまるで綺麗に圧雪されたゲレンデのようなツアーコースをてくてくと登っていく。全く沈まないのでラッセルも無し。風は少し強い。前回来たときは強風のため敗退した。その時雪洞を掘った場所を通過した。今回はどこまで行けるか。せめて山荘までは行きたい。剣ヶ峰に近づくとさらに風が強くなってきた。アイスバーンも次第に増えてきた。前方に小屋の屋根が見えたのでそこまで頑張って休憩することにした。コンクリートで出来た立派なお揃いの二つの小屋が建っていた。ちょうど風もよけれる。これが位ヶ原山荘かな？ でも閉鎖されていて営業してないぞ。下山後に地図で調べたらなんとただのトイレだった。トイレの前で位ヶ原山荘に着いた気分でした俺たちは、そこでおいしくご飯を食べた。山頂を見ると雪煙が舞い上がっている。斜面もがちがちに凍っていそう。今回は念願の山荘にも来たことだし(行ってないし)、ここから滑走して下山することにした。雪面をよく見るとグレーの部分は凍っていて、白い部分はまだ柔らかい。白い所を選んで滑ることにする。途中で右のおもしろそうな尾根に行ってみようとしたけど、間の沢筋が深そうで戻って来れなくなるといやなので登ってきたルートを下った。ゲレンデの中でリフトの前で微妙な登り返しがあるのが疲れた。あっという間に駐車場に到着して休暇村の温泉に入った。春スキーバスの乗り場もこの休暇村の前ということなので次はバスで行こうと思う。

T 記

## 3月23日(土) 高松山 山スキー (個人山行)

CL:M井 K津 T島 S谷

白馬駅 5:30 笹倉温泉 7:40 高松山 12:30～13:00 笹倉温泉 15:30

4時30分暗い中を自宅に来てもらった寺島車に便乗し、白馬駅集合。待っていたのはMさん一人。あれ！Tさんは？「準備が間に合わないためキャンセル」とか？、さては天気予報が良くないためドタキャン？などと考えていたら、予報通り雨！

我々3人も今日は現地で温泉に入って解散？などと想像しながら、笹倉温泉を目指す。笹倉温泉に7時頃着いたが雨から雪に変わったものの、山はガスで何も見えない。1時間ほど様子を見てみると明るくなってきたため登ることにする。今年は日本海側は大雪が多かったが、登り口の雪の量は例年通りで地面もあちこち出ている。

標高 1300mあたりからガスの中を歩くが、まったくのホワイトアウト。地面と空の区別がつかない。GPSでなんども現在位置を確認しながら慎重に登る。ふと気がつくと、ガスが薄くなり焼山の斜面の木々が幻

想的に浮かび上がる。そのあと焼山/火打がガスの中から現れとても素晴らしい景色に、みんなの足が止まる。天気は回復傾向のようで、周りの景色が現れたり消えたりを繰り返す。そのうちに、我々の目指すピークにつながる尾根が現れ、まるで空に向かって登るようである。ピーク直下では、急登のためスキーを脱いで登る。ピークで大休止。

これから滑る斜面を見ると、ガスがあり先が見えない。ガスが切れる間を見ながら、慎重に滑る。ガスの中では平衡感覚がおかしくなり、目が回ってくる。斜面の起伏も判らない。しかし、木は少なく斜度も丁度よく広い斜面で最適である。これでガスがなかったら最高の斜面である。途中、沢から水の流れる音が聞こえる。え！沢(一の倉川)に雪がないの？！(ガスでまったく見えない)しかし、山スキーで沢を渡渉する経験者ばかりのためメンバーに迷いはない。行ってみないとわからないという。

最悪は登り返しを覚悟して滑り降りると、向かい側の支沢から流れ落ちている滝の音で、本流の沢は雪で埋もれており問題なかった。一同ほっとする。沢は斜度が緩やかのため、西側の尾根からの落ちたデブリを避けながら、直下降であつという間に降りてしまう。標高 700mぐらいのところから、西側の峠に登り返しそこから、焼山温泉につながっている尾根を滑り降りる。川に出るところで急斜面を一瞬降り、対岸へと板を外して渡ると、駐車場に出る。

道路端にはふきのとうがでており、T島さん・K津さんのお土産になりました。笹倉温泉は、内風呂・露天風呂などたくさんあり、とても疲れが取れました。 S 谷 記

## 3月30日(土)—31日(日) 爺ガ岳 (例会山行)

CL:T島 T井 S谷

1日目:晴れ 鹿島山荘 6:10 P3ピーク (1978m)10:40 爺ガ岳ピーク 1:30 P3ピーク(幕場)16:20

当初の予定では、翌日ピークへのピストン予定だったが、天気予報が悪かったため急遽初日に変更した。リーダーの機転により、今回は素晴らしい景色をピークから見る事が出来た。

朝、どんよりとした天気でも今にも雨が降り出しそうである。道端の祠の横に車を置き、今は無人となった鹿島槍山荘の庭を歩いて、登り口に入る。昔はここを拠点に登る登山者が沢山いたかと思うと、時代の流れを感じる。



登り口でカモシカの出迎えがある。

いきなり急登になる。今は雪が無いが真冬の新雪では、ラッセルに相当苦労すると思われる。

1時間ほどで残雪が現れ、しばらくは足が雪にもぐり歩きにくい。4月末頃はかなり雪も溶け、1時間以上の藪こぎになるだろう。赤布がいたるところにあり迷うことはない。ニホンリスも出てきた。1760mのピークから歩きやすい尾根になる。昨日入山したと思われるパーティーのテントの横を通り、1900mあたりの鞍部にテントを張る。

そこから、ピークのピストン。ガスの中いきなり、ピークが見える。今日は景色が駄目かと思ったが、天気予報通り晴れるようだ。尾根が切れてはいるが、ザイルを出すほどでもない。(風が強いときは出した方がいいだろう)途中から、ガスが晴れ槍ヶ岳・爺が岳・鹿島槍など360度のパノラマが広がる。すばらしい！2350mの尾根に出ると風が強くなる。ピークに立つと、剣・立山・・・絶景である！

寒いので、直ぐに降り始める。他のパーティーがアンザイレンで登ってきた。

彼らは良く知っているのか、我々のテン場から少し上がった、尾根の途中の林の中にテントを張っていた。



我々は、吹きさらしの場所に張ったため、夜中の暴風でたたき起こされる。私は不安になりリーダーに雪の壁作りを提案したが、問題ないとのことで、寝る。しかしテントのポールが曲がってしまった。雪山の厳しさを思い知る。

2日目：雪

幕場 7:50 鹿島山荘 10:15

昨夜から5cm程の積雪。朝から吹雪のためテントを畳むのに苦労する。翌日は下るだけなので、のんびりムードでテントを撤収し、途中から雨となるがあつという間に下山。春山の楽しさが少しわかった気がしました。 S 谷 記

## 4月5日(金) 赤倉山・山スキー (個人山行)

メンバー CL K原 SL K林 H部

8:50 池の平スキー場トップ 9:05 出発 10:25 肩着 11:00 滑降開始 12:25 駐車場着

本来は翌日に風吹方面山スキーの予定でしたが、週末は生憎の悪天候の予報。週末の山行は中止となり、その代わりに天気の良い前日に赤倉山に山スキーに行きましょう、と声をかけていただき、妙高の穴場、赤倉山に行ってきました。

明日の悪天候なんて信じられないような青空の下、池の平スキー場のリフトを2本使ってゲレンデトップへ。太陽を眩しく感じながらシールを着け、出発。元スキー場を歩いている時は多少は風が通っていましたが、樹林帯に入ると風はなく、日差しが背中に直角に突き刺さり、猛烈に暑かった記憶しかありません。雪は緩んでズルズルで歩き易かったですが、帰りの滑りはあまり期待できそうもありません。暑い暑いと言いながら、10:25 肩(1900m)着。昼寝をしたくなる陽気の中、K原さんが持ってきてくれたビールを分けてもらい、3人で乾杯してノンビリ寛いでから滑走開始(11:00)。最初の斜面は開けていて斜度も適度で滑りに良かったのですが、その後は落ちている枝が多く、雪は重く、疲れました。板を回すのがきつくなってきた頃に挟れた沢に出会い、少し沢沿いに滑って渡るのに適当な箇所を選び、沢底まで滑って、板を外してツボ足で登り返しました。登り切ったゲレンデに出る少し手前の所でしばし休憩。山菜談義の花が咲きました。そこからはゲレンデを滑り、12:25 駐車場に着き、妙高駅前のお蕎麦屋さんで200円の温泉公衆浴場に向かい、なが〜いお蕎麦と暑いお湯を満喫して、帰路につきました。

H部 記

## 4月13日(日) 日白山 (個人山行)

L T塚 S木 Y本 H岡 K山

行程:7:30 二居スキー場 10:00 東谷山 11:00 日白山 12:00 タカマタギ 13:20 日白山  
16:00 二居スキー場

先月に行った平標の隣、日白山に行ってきました。スキー場横の路肩に車を止めてまずは東谷山のピークを目指します。東谷山までは結構な急登もありなかなか登り応えがありました。そして今年は雪が少ないのか、解けるのが早いのか結構ブッシュが出ていて手を取られ、ザックをひっかけ、足をひっかけ…、なかなかの苦戦でした。雪の量によってタイムにも結構影響が出そうです。どんな時期でも藪(ブッシュ)こぎはあまりしたくありません。しかしブッシュを抜けて稜線に出るととても快適な稜線歩きでした。心配していた風もほとんどなく、寒さも感じずに適度なアップダウンの稜線歩き、天気にも恵まれ周りの山々がかなりよく見渡せました。ブッシュに時間を取られたのかと思いましたが、割と余裕を持って日白山のピークに到着。今回はここで終わりではありません、さらに奥のタカマタギまでを目指します。日白山からみると割と遠くに見えましたが、歩きだしてみるとさほど距離もなく1時間ほどで到着しました。日白までは割と人も多く入っているようでしたが、タカマタギまで来る人は少ないようでピークはかなりすいていました。先客の地元の人らしき2人組みの方たちと話ながら山名などを教えてもらいました。ところでこの2人の方たちピークに1時間~居て一人の方はかなりお酒を召し上がっているようでした。山の上でこんなに酔っぱらっていて大丈夫でしょうかと、人ごとながら心配になります。ここで本来の計画であればタカマタギから日白まで戻って二居スキー場に戻るのですが、このまま土樽の駅まで縦走してタクシーで戻らない?という案が浮上しかし結局は当初の計画通りに日白まで戻り下山をすることにしました。

下山路はブッシュもなく快適~と思っていたのですが、先行していた集団のトレースについていくとかなりの急斜面あり、念のためとはいえザイルを出すほどでした。う~んあんまり先行のトレースを信じるのも考えものです。もうちょっと地形をみて別のコース取りをしていれば…、でもトレースがあるとついて行きたくなるのが人のさがですかね。それでも16時過ぎには無事スキー場の車に到着、なかなか歩きごたえのある1日でした。

K記

## 4月13日(土) 佐渡山 山スキー (個人山行)

CL:T島 S谷

行程: 登山口 8:40 佐渡山ピーク 11:40 登山口 15:30

当初の予定では苗場山の予定だったが、M井さんが体調不良のため2人だけとなり交通費なども高くつくということで近くの乙妻山に急遽変更した。しかし、登り口に着くとまったく雪がない。どうしたものかと思案し時間をつぶしてしまい、結局、乙妻山手前の佐渡山までとなった。

土が出た林道を8割ほど登るとようやく雪道となる。しかし、ところどころブッシュが出ているため、スキーをぬぐ。

佐渡山から北部斜面を滑るが、やはり時期が遅いためブッシュが多くよけるのに苦労する。佐渡山に登り返し 14 時。下りも、なんとかブッシュを



よけながら滑り降りました。滑りはいまひとつでしたが、快晴で風がまったくなく、静かで素晴らしい景色が最高でした。

S 谷記

## 4月20日(土) 唐松岳 (例会山行)

CL: T 谷 K 林 T 井 S 谷

行程: 八方ゴンドラ 8:00 八方池山荘 8:45 唐松岳頂上山荘 12:00 八方池山荘 15:10

春山にはまり始めている私の希望で、急遽 T 屋さんに唐松岳～五竜岳の縦走を企画していただいた。ひまわり7時集合。天気予報では今夜から雪・雨のため、雪上訓練をしながら唐松岳テント泊または今日中に五竜岳まで行く2案を提案され、今日中に五竜を目指すことにした。登り始めは晴れ間も見え、目指す五竜岳もばっちり見える。ゆっくりなペースでも汗をかいてしまうため、薄着で歩く。

3 時間で唐松岳の山荘に着く。唐松岳のピークが見える。ここからアイゼンを履き五竜に向かおうとしたが、数分の間に猛吹雪に変わる。改めてこの時期の天気の変わり方にびっくり。気温もあつという間に下がり、足の指が冷たく痛いほど。目出帽・ゴーグル・ウィンドヤッケ・・・完全防備の真冬の準備を数分の間にしないとあつという間に低体温症になるだろう。ここから先へ進むか戻るか思案し安全第一ということで、今回はここまでということになる。

私は少し物足りなかったのですが、唐松岳のピークまで行き皆の後を追って下山。途中で2羽の真っ白な雷鳥に出会う。天気予報では下界でも今夜20cmの積雪予報が出ている。やはり、降りてきて正解だったようだ。計画していただいた T 屋さん、ゴンドラ乗り場まで送り迎えをしていただいた、T 屋さんの奥さんに感謝です。

今回は悪天候で日帰りになってしまい残念でしたが、また次回宜しくお願いします。

S 谷 記



## 4月20日(土) 裏妙義山 (個人山行)

L: K 池 M 下 Y 本 K 池

長野 7:00 出発。 8:35 裏妙義国民宿舎出発

暑くなく寒くなくのこの季節。山も春の山の期待に沿って、花の名前が出てきませんが春爛漫の上州の花々。「よいですねー」「しかし、この道しるべのペンキ、適当すぎませんかー。向こうの道らしいところの方がずっと近くで楽そうではないですかー」

9:30 木戸 「思ったより道があるきやすいですねー」

10:35 龍沢のコル 「もう少し」

10:55 丁須の頭(1057m) ちょっとトウのたった若モン 4 人が丁須の



頭の鎖にぶら下がっており、イヤ1名は諦めたか！ 3名登頂成功。ザイルなしで大したものだ！！

ここからが核心。ハーネスを装着、腰掛結びのカウテイルも作り、イザ出陣。

「足場よくありませんなー」「これで風が吹いたら、ビビリまくりですねー」

「雨の日は絶対来ませんネー」「チムニーの鎖下降は背中を点けても疲れますねー」

「この鎖 大きくてカラビナよく通過しませんねー、ガラガラ ー」

「アルミのトラバース用の足場はキラキラでなんとゆうか山の風情を壊しますねー」

「壊れかかっているこのアルミ足場って壊れませんよねー」

「前に沢登りでこの斜面上がったのですが、きつかったですねー」

13:30 烏帽子岩 「どれが烏帽子じゃー」

13:50 三方境 丁須の頭に鎖にぶら下がってた4名の若者にここで追いつく。我々もまだまだ若いモンには マケンゾーとっ！！ 気だけは若いが1時間半の下りの後半の上り返しは応える」

15:25 国民宿舎着 オッ “アカハラ”に似たマニチャ？発見 [グループ登山のため双眼鏡無し]で詳細見えず ウロウロするカミさん！ が “オオルリ” メッケ で OK。

今回 この季節のため ヒル無し。 例のごとく お風呂 裏妙義国民宿舎 料金 400円

クマさん記

## 4月23日(火) 児野山 (個人山行)

L U木 Y本 会員外1名

木曾町町営駐車場 10:00ー頂上 12:30 発13:00 登山口 14:00

21日に行く予定が前日季節外れの大雪で1日延期 (長野マラソンの日でランナーはさぞかし寒かったらう。)

今日は午前は晴れ 午後から曇りの予報。おおむね天気良かった。塩尻インターから1時間で木曾町へ 町営駐車場 2時間まで200円 あとは1時間ごとに50円。木曾義仲のお墓のまえから遊歩道に入る。各所にきれいな案内板 木々の解説がある。ここから城跡へ 60分 看板によると木曾義仲の城ではなくはるかな後裔が建てた城 石垣はなく 平らな台地がすこしあるだけである。ここまでは広い道で登山の気分はいまいちである。ここから若干登山道らしくなった。2時間半で頂上に着く。伊部さんでは2時間となっていたが鈍足の私では30分余計にかかると思っていたがそのとうりになった。誰もいないと思っていたらなんと中年の男女二人が頂上で焼きそばを作っていておいしそうだった。ベンチが2台ありそこに陣取ってお昼。コンビニのむすびを2こあつというまに胃につめこむ。ここから50m先で 御嶽山がよくみえた。雪が被った御嶽を撮影した。頂上でY本さんが自動で3人を撮影してくれて。帰りは権現滝コースを選ぶ。少し下ると道が2本に分岐 尾根と沢 ここでどちらかが分からずGPSをみたり地図をみたりしたが尾根を少し歩いておかしいので沢にくだと正解だった。しばし沢沿いにくだる。名所らしく見学小屋まで設置されていた。滝は25mできれいだった。試しに下部の岩を触ったらつるつるで登れそうもなかった。くだりは小さい花が沢山ありなかなかきれい





で Y 本さんに教わる。とくに驚いたのは「ヒトリシズカ」 こんな名前の花があるとは 菅田哲也の最近読んだミステリー も「ヒトリシズカ」なるタイトル 若き女性が事件の核心となる殺人事件 おもしろかったので記憶が強くえ！ それと同じ名前の花があるなんて。変わった美しさのある小さな花なんですけど自分のカメラは精度がわるく花は映せないのが残念でした。今日の山はめずらしく 花が主人公だった。70歳になり少しは花を愛でる気分になったのか？ おおむね道は整備されていて歩きやすかった。下山してすぐ下を天竜川が流れていた。特急信濃で車窓からよく見たがまじかに見るのは初めてだった。帰りに道の駅で コシアブラを買った。天ぷらにするとおいしいらしい。 ?記



## 編集後記

春の平尾山でタヌキの兄弟(?)に出会った。夜間なら家の近所でも見かけたりするけど、昼間で山では初めて。フガフガ言いながら兄まっしぐらにこっちへ突進。ぶつかってきそうなので思わず避けるつもりで足をあげたら、ビクッと止って一瞬威嚇してまた突っ走っていった。弟も突進。直前で気付いて興味深そうにこっちを見るその姿が妙に可愛い。下山時、下の林を追いかけっこする姿が見えた。春の花を愛でにきたけど、こんなことも里山ならでは。

／とっこ



今までは週に 1~2 回は弁当を買ったり、外で食べることも多かったけど、ここ数週はずーと外食をせずに自炊のご飯のみで生活していた。別に何かを思ってそうしていたわけではなくたまたまそうになっていた。そしてこの間久々に外食をしたら、「味濃っ」と感じた。今までもその店でも食べたことあったのにこんなに味濃いと思ったことはなかった。今までは知らず知らずのうちに濃い味に舌が馴らされていたということでしょうか。そして今度は自炊で薄味に馴らされたということでしょうか。人の感覚って結構いい加減で、簡単に騙されるものですね。でもこうなると外食しづらいな…、これからはがんばって自炊する努力しよう。いつまで続くかわからないけど。

／カタカナ

今月号から編集を担当させていただくUです。やまふみは 山行報告 山行計画等いくつかで構成されていますのですべてのパーツを用意するのにみなさんのご協力が欠かせません。よろしくお願いします。余裕ができれば新しいパーツを作成したいですね。

引退しまして里山に行くことと孫の子守りが今の関心事です。微力ながらお手伝いさせていただきます。ところで山と気候は切り離せませんが最近「古代文明と気候大変動」を読んで人と気候のつながりを思い知らされました。おまけ:5月号にみる山行回数は17名中 今月のトップは5回のSさんでした。

／ゾラ

(ゾラの語源は19世紀に活躍したフランスの作家エミール・ゾラのことです。)